

助成事業実施報告書

団体名 自立援助ホーム マルコの家

代表者・役職名 氏名 ホーム長 野原 知子

▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調をお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真(2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願い致します)を添付して下さい。

1. 助成プロジェクト名

入居者全員での旅行

2. 実施団体の概要(創設の経緯、創設時期=法人で、法人化前に任意団体での活動がある場合、その段階からご記入ください。会員数など。180文字程度まで)

前施設長の小田が元々里親の経験があり、親がいない子や親と住めない子の境遇を危惧し、自立援助ホームの必要性を感じ設立しました。
設立時期は2010年7月1日、職員4名、非常勤5名、入居者8名、賛助会員37名です。

3. プロジェクトの目的とその背景(※応募申請書に記載のものでも可) 250文字程度まで

現在、ホームの予算状況では中々全員を旅行に連れて行くということが出来ず、子ども達も全員で何かに取り組む楽しさ、共有できる思い出自体を知らない子もおり、この機会に経験させてあげたいと考えています。

4. プロジェクトの内容(※当初予定と変更がない場合は、応募申請書に記載のものでも可) 300文字程度まで

一泊旅行で初日は東京ディズニーシーに観光、行動は4班にわかれ自由行動でした。ホテルに戻る時間も各自に任せ、その後東京ベイ舞浜ホテルに一泊しました。2日目はそれぞれが東京の行きたいところを観光し、これも各自の判断に任せ、食事なども予算内で自分たちで決めさせ、自主性のもと行動してもらいました。

5. プロジェクトの実施で得られた「結果」(OUTPUT。実施回数や参加者数など)、「成果」(OUTCOME。事業によって生じた直接的な変化)、「社会的な変化」(IMPACT。事業が社会に与えた影響)などの『効果』 300文字程度まで

旅行に行ったことで、今まで話をしなかった子達が話をしたり、一緒に写真を撮るなどの交流があり、今後の生活においていい影響がありました。これがきっかけになりホーム内で子ども達の交流が活発になってくれたら、と思います。その他にも自分達で行きたい場所を探せたり、しおり作りをしてくれるなど自主的な行動が多く見られました。

6. プロジェクト実施にあたっての課題、今後の展望など 300文字まで

お小遣いの大半を1日目で遣ってしまう子がいるなど、お金の遣い方について話し合う時間を持つ必要を感じました。今後は帰属意識と一体感がもてる企画を考えていこうと思います。

7. 参考資料

支援対象プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等は現物またはコピー、活動状況の写真などを参考資料として提供してください。 参考資料あり・特になし

